

## 家庭ごみ有料化・戸別収集について

## I 家庭ごみ有料化

## 1 ごみ有料化とは

ごみ処理に要する経費の一部を、ごみ排出者から手数料として徴収することをいいます。全国1,741市町村中1,108市町村(63.6%)が有料化を導入しています(平成30年4月現在)。

【表1】県内各市の導入状況

	対象ごみ	有料袋の大きさ	有料袋の単価	導入時期
大和市	可燃ごみ 不燃ごみ	5、10、20、30、40ℓ	1.6円/ℓ	18年 7月
藤沢市		5、10、20、40ℓ	2.0円/ℓ	19年10月
鎌倉市				27年 4月
逗子市				27年10月

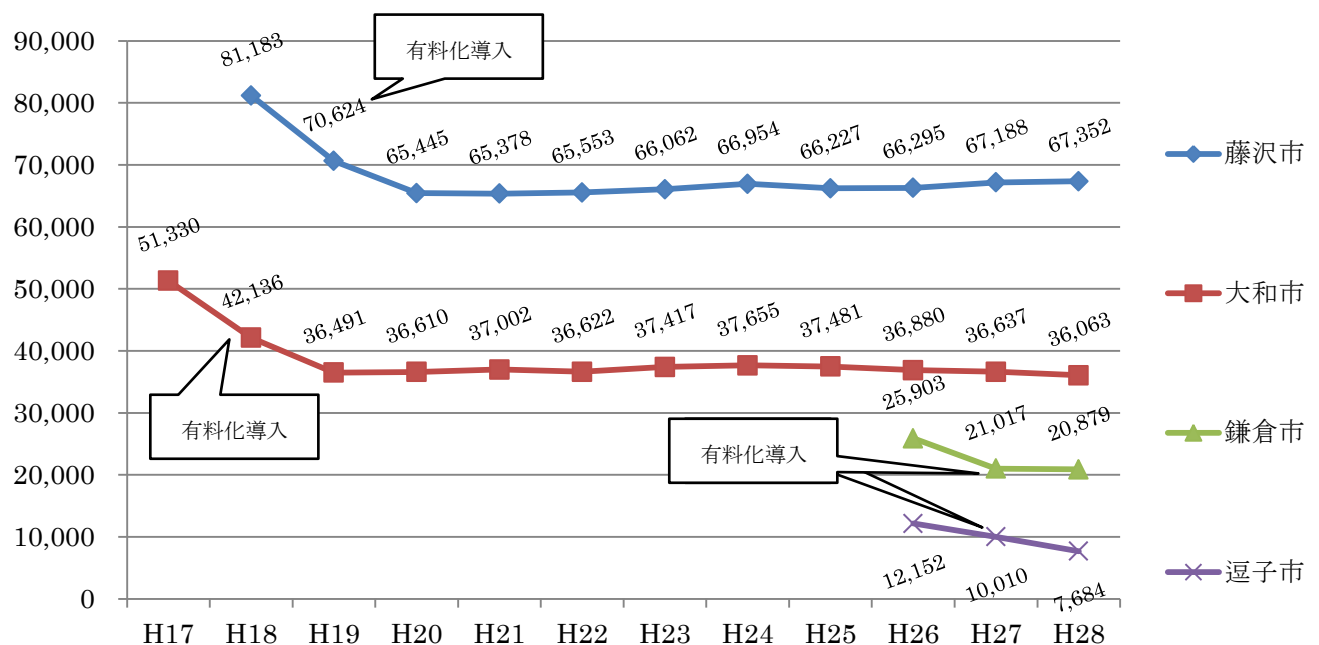
## 2 導入のメリット

## (1) ごみの減量

排出するごみの量に比例して費用が発生するため、排出量を抑えようという意識が働き、ごみの減量が進みます。

【表2】有料化による家庭系ごみ(可燃・不燃)の減量実績(導入の前年度比%)

	導入の前年度	導入年度	導入の翌年度
大和市	51,330 トン	42,136 トン (-17.9%)	36,491 トン (-28.9%)
藤沢市	81,183 トン	70,624 トン (-13.0%)	65,445 トン (-19.4%)
鎌倉市	25,903 トン	21,017 トン (-18.9%)	20,879 トン (-19.4%)
逗子市	12,152 トン	10,010 トン (-17.6%)	7,684 トン (-36.8%)



## (2) 費用負担に対する不公平感の解消

ごみの排出量に応じて費用を負担することになり、ごみを多く出す人と、努力してごみを減らしている人との間にある不公平感がなくなります。

## (3) ごみ（環境）に関する意識の変革

費用負担を意識するようになるため、簡易包装や詰替製品、リサイクル製品の購入など、日常生活において、ごみに関する意識が変わります。

## (4) ごみ処理に必要な財源の確保

ごみ処理量が減るため、収集や処分などごみ処理にかかる費用が削減されます。また、有料化による収入を将来の施設整備等の財源とすることができます。

【表3】先行市の収支状況（H28）

	人 口	有料袋売上収入 (A)	有料袋販売等 経費 (B)	収支 (A) - (B)	市民 1 人当 たり負担額 (年額) (A) ÷ 人口
大和市	233,942 人	3 億 5,668 万円	1 億 2,565 万円	2 億 3,103 万円	1,525 円
藤沢市	426,678 人	6 億 4,902 万円	1 億 9,610 万円	4 億 5,292 万円	1,521 円
鎌倉市	172,337 人	2 億 9,020 万円	1 億 695 万円	1 億 8,325 万円	1,684 円
逗子市	60,556 人	9,889 万円	3,765 万円	6,124 万円	1,633 円

※有料袋単価は、大和市：1.6 円／ℓ、藤沢市・鎌倉市・逗子市：2.0 円／ℓ

【表4】本市での有料化導入シミュレーション（H28）

参考市	茅ヶ崎市 人口	有料袋売上収入 (A)	有料袋販売等 経費 (B)	収支 (A) - (B)	市民 1 人当 たり負担額 (年額) (A) ÷ 人口
大和市	240,046 人	3 億 6,598 万円	1 億 2,892 万円	2 億 3,706 万円	1,525 円
藤沢市		3 億 6,514 万円	1 億 1,032 万円	2 億 5,481 万円	1,521 円
鎌倉市		4 億 0,422 万円	1 億 4,897 万円	2 億 5,525 万円	1,684 円
逗子市		3 億 9,200 万円	1 億 4,923 万円	2 億 4,277 万円	1,633 円

※各市の実績に基づき、本市の人口ベースで試算

## 3 導入のデメリット

### (1) 家計負担の増加

ごみ処理に要する費用の一部を、手数料として徴収することになるため、新たな家計負担を伴います。

## (2) 不法投棄等

不法投棄や指定袋以外での不適正排出が予想されるため、住民への周知に努めるほか、収集袋の工夫や集積場所の管理、監視等に配慮する必要があります。

【表5】不法投棄の対策例

対策	内容
不法投棄が頻発する場所の管理	看板、人感ライト、車両進入防止柵、プランターの設置
投棄者への指導	投棄者の調査、警察との協力・監視強化
監視	監視カメラ、通報体制の整備

【表6】不適正排出の対策例

対策	内容
ごみ袋やシールによる対策	分別区分別に色分けされたごみ袋やシールの使用
	半透明袋、記名式ごみ袋やシールの使用
収集方法に関する対策	戸別収集の実施
周知啓発	冊子や広報、マスメディア等を活用した制度の周知

## II 戸別収集

### 1 戸別収集とは

各家庭の敷地内に排出されたごみを、戸別に収集する方法のことを言います。

【表1】県内各市の導入状況

	対象ごみ	導入時期
大和市	可燃、不燃	18年7月
藤沢市	可燃、不燃、資源物	19年4月

### 2 導入のメリット

#### (1) ごみの減量

排出者の責任が明確になるため、適切に排出しようという意識が働き、ごみの減量が進みます。

#### (2) 集積場所の問題の解消

各家庭の敷地内にごみを排出するため、不適正排出やカラス被害、景観の悪化、通行への支障等、これまで地域の方が抱えていた集積場所の問題が解消します。また、高齢者をはじめ各世帯の方にとって、ごみを出す際の利便性が向上します。

### 3 導入のデメリット

#### (1) 新たな経費の発生

集積場所から各家庭への回収に切り替わることに伴い、車両や人員の増加が必要となることから、新たな経費が発生します。

※本市で実施した場合に新たに必要となる経費（車両や人員）の算出に向け、現在、ルート確認等の現地調査を実施している段階です。

#### (2) コミュニティの希薄化

地域で協力して実施していた集積場所の管理がなくなることから、地域における住民間のつながりが少なくなります。

## Ⅲ 有料化・戸別収集の検討

### 1 今後の検討について

ごみ処理に関する課題解決の方策として、今後、本市においても有料化・戸別収集について検討を進めます。なお、検討にあたっては、ごみの減量効果や経費といったメリット・デメリット、他市の事例等を参考に進めます。

### 2 検討スケジュール

